

景況レポート 3月

3月の県内景況は、引き続き低調に推移。卒 入学シーズンであったことから一部の業種 では売上の増加が見込まれたものの、原 材料の高騰や天候不順などが影響し、多 くの業種で景況が悪化となった。

情報連絡員による平成29年3月の県内中小企業の景況は、業界全体として「好況」は5.3%（前月比-3.6）となっており、「横這い」は47.4%（同+4.5）、「低調」とするところが47.3%（同+0.9）、業界全体の「景況感DI」は-42.1%（同-2.8）となっています。

1. 全産業の項目別前年同月比DI値の動き

◇「売上高」、「在庫数量」、「販売価格」、「取引条件」、「収益状況」、「設備操業度」の6項目が前月と比較して好転しています。

2. 業種別の「業界の景況」

◇前年同月と比較して、「快晴」または「晴れ」の業界はなく、木材木製品製造業、卸売業、建設業、「曇り」または「薄曇」、その他の業種は「大雨」または「雨」となっています。

◇来月の見通しは、好転、やや好転の見込みとの回答が、17.5%（前月比-0.4）と減少しております（好転の回答2件、やや好転の回答8件）（製造業3、非製造業7）。同様に変わらないが、52.6%（前月比-13.5）と減少しております。一方で、やや悪化、悪化の見込みは、29.9%（前月比+13.9）と増加しております。

平成29年3月の景況について、情報連絡員からの報告は以下のとおりです。（回収率95.0%）

項目別DI 業種区分	売上高		販売価格		収益状況		資金繰り		雇用人員		業界の景況	
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
食料品製造	14.29	-28.57	0.00	0.00	14.29	-28.57	-14.29	-28.57	0.00	-14.29	-14.29	-42.86
繊維製品製造	33.33	0.00	0.00	33.33	0.00	-33.33	33.33	-33.33	0.00	-33.33	-33.33	-66.67
木材木製品製造	0.00	25.00	0.00	25.00	0.00	25.00	25.00	25.00	0.00	0.00	0.00	0.00
鉄工機械製造	25.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-50.00	0.00	-25.00	0.00	-25.00	0.00	-50.00
その他の製造	57.14	-71.43	0.00	-14.29	28.57	-57.14	0.00	-28.57	0.00	14.29	-14.29	-42.86
卸売業	0.00	-50.00	0.00	-25.00	-50.00	0.00	-25.00	-25.00	0.00	0.00	-25.00	0.00
小売業	25.00	-50.00	12.50	25.00	-25.00	-50.00	-12.50	-50.00	-12.50	-12.50	-25.00	-50.00
商店街	50.00	-33.33	16.67	-16.67	16.67	-33.33	0.00	-33.33	0.00	0.00	-16.67	-66.67
サービス業	16.67	0.00	0.00	16.67	0.00	-33.33	0.00	-16.67	0.00	-16.67	-16.67	-33.33
建設業	-20.00	-40.00	0.00	-20.00	0.00	-20.00	0.00	-20.00	-40.00	-40.00	-20.00	-20.00
運輸業	33.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-33.33	-33.33	-33.33	-66.67	-33.33	-33.33

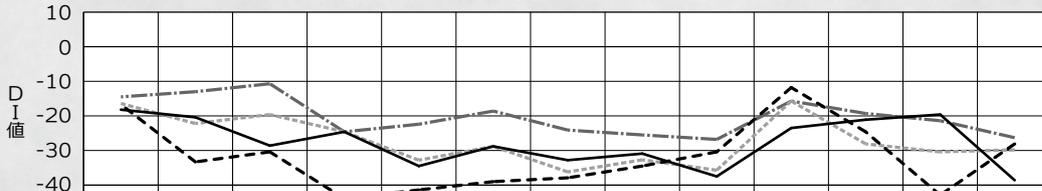
天気図の見方

各景況項目について「増加」（または「好転」）業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を差し引いた値（D・I値）をもとに作成。その基準は下表のとおりである。

D・I値基準値

- 快晴 30以上
- はれ 10~30未満
- うすぐもり -10~10未満
- くもり -30~-10未満
- 雨 -50~-30未満
- 大雨 -50未満

業界の景気動向（前年同月比）全業種 DI 値（平成28年3月~平成29年3月）



	平成28年3月	平成28年4月	平成28年5月	平成28年6月	平成28年7月	平成28年8月	平成28年9月	平成28年10月	平成28年11月	平成28年12月	平成29年1月	平成29年2月	平成29年3月
業界の景況	-18.2	-20.4	-28.6	-24.6	-34.5	-28.8	-32.8	-30.9	-37.5	-23.5	-21.1	-19.6	-38.6
売上高	-16.7	-33.3	-30.4	-43.9	-41.4	-39.0	-37.9	-34.5	-30.4	-11.8	-24.6	-42.9	-28.1
収益状況	-16.4	-22.2	-19.6	-24.6	-32.8	-28.8	-36.2	-32.7	-35.7	-15.7	-28.1	-30.4	-29.8
資金繰り	-14.5	-13.0	-10.7	-24.6	-22.4	-18.6	-24.1	-25.5	-26.8	-15.7	-19.3	-21.4	-26.3

食料品製造業

<漬物>

中小企業はどこも厳しい。特に食品は大変厳しい状況が続いている。

<パン>

人手不足が深刻である。時給の急騰も問題。

<味噌醤油>

味噌・醤油の出荷量は依然として低迷が続いている。味噌用原料の規格外米不足・価格の高騰等によりMA米(外国産米)へのシフト化がやむを得ない状況にある。

<菓子>

4月は入学式や花見等、一番の需要期となるため、売上の上昇が期待される。

<乾麺>

天候不順により出荷量は低調であった。28年度の全国の乾麺の生産量は平成27年度に続いてマイナス。業界全体としては、4.8%の減少。特に機械製そうめんの生産量が22%の減少。手延そうめんが、3.5%の減少となった。

<酒造>

前月に引き続き売上が伸びず、厳しい状況にある(吟醸、純米等も前年割れ)。全国的なものなのか、風評なのか原因がつかめない。

<食品団地>

今月も消費の停滞気味は変わらない状況であり、消費者ニーズを汲んだ商品構成や購入層のターゲットを明確にする等が重要となってくる。今後も経済環境の変化や原油価格の高騰等、収益に影響が出てくる見通しで難しい状況が続いている。

繊維工業

<ニット>

春夏物の受注減により、早めに生産が追いついた。今後の見通しが心配である。

木材・木製品製造業

<製材業>

復興住宅向けの引き合いが落ち着き、地元需要中心の中小工場の製品生産量が落ちてきた。このため、丸太価格が少しずつ下がり始め、需用者からの製品価格への値下げ要望も出てきている。

<外材輸入>

例年1~3月期は新設住宅の引き渡し時期であり、製材品の荷動きは低調である。また、3月期末の関係で在庫積み増しもなく、落ち着いた展開となっている。

紙・紙加工品

<紙器・段ボール箱>

紙器・段ボール箱業界においては、業界大手との横のつながりが軽薄となり、情報交換等もなく、行き過ぎた価格競争の傾向にあると見受けられる。その動きが中小零細企業に悪い影響を与えている。

印刷

<印刷業>

用紙等の原材料や運送関係に値上げの動きがあり、コスト上昇による収益の低下が懸念される。

窯業・土石製品製造業

<碎石>

(県北地区)

- | | | |
|------------|-------|-------|
| 1. 当月売上数量 | 前月比 | ±0% |
| 2. " | 昨年同月比 | 約35%減 |
| 3. 本年度売上数量 | 昨年対比 | 約30%減 |
| 4. 原因・現状 | | |

公共事業及び民間工事が少なかったため、年度末であったが出荷量が少なかった。

<生コン>

平成29年3月の組合員生コン出荷数量は、149,186m³と対前年同月比-6.5%。出荷数量の内訳は、民需が対前年同月比-8.3%、官公需が-18.9%であった。

○民需の動向

対前年同月比 -8.3%

対前年同月比増加地区

いわき地区：+13.9% ショッピングモール新設工事等

対前年同月比減少地区

県北地区：-6.8% 市内病院移転新築工事等

県中地区：-12.9% 市内病院治療センター増築工事等

白河地区：-35.4% 工場倉庫増築工事等

相双地区：-3.2% 第一原発固体廃棄物貯蔵庫、ロックウール生産工場建設工事等

会津地区：-21.1% マンション、老人福祉施設建設工事等

○官公需の動向

対前年同月比 -18.9%

対前年同月比増加地区

県北地区：+41.6% 福島市体育館新築工事、相馬福島道高架橋工事等

県中地区：+4.3% 郡山市西田学園建設工事、三森1号トンネル舗装工事等

白河地区：+29.0% 千五沢ダム改築、古殿町体育館建設工事等

対前年同月比減少地区

いわき地区：-27.0% 港湾災害復旧、市内共立病院新築工事等

相双地区：-35.5% 海岸線復旧、漁港復旧工事等

会津地区：-24.6% 河東学園建設工事、城前団地工事等

<各種プラント機器>

当組合のプラント設備関連業界は、売上高が前月比で27%の増加となるも、前年同月比に於いては66%減と低調な状況となった。累計でも前年比の58%と厳しい締めくくりとなった。来年度は新年度予算に基づく補修工事や新規設備等の計画引き合いに期待したい。

<電子工業>

3月期の売上げ上昇は、年度末に当たり受注先の年度末調整によるものかと思われる。

<漆器>

消費動向は相変わらず厳しい。観光客も見ただけで財布のヒモは堅い。一方、輸出の商談が少しずつまとまるようになってきた。新しい販路を求めて模索しているようだ。

卸 売 業

<卸売業>

(県中地区)

昨年あたりから復興需要がピークを過ぎたとの観測があるが、現実に建築資材関連が影響を受け始めている。前年比で2割程度落ち込んだという企業も見受けられた。今まで良すぎた反動とも言える。一方で、今後については、避難区域の解除による需要も見込める。国に対しては、税制や補助金政策等を充実させ復興を後押ししてもらいたい。そのことによって業種業態を問わず、業績の回復を図ることが出来る。また、東京オリンピックを控え、中央に人出が取られるなどして、人出不足が更に深刻化することを心配する声が聞かれ始めている。

<再生資源>

古紙・鉄スクラップともに輸出市況が軟調展開で相場先安への警戒感が台頭、海外マーケットの動向が注視される。市中回収量は上向いたが、3月の季節指数を考慮すれば回復の兆しが見えてきたとは言い難く、引き続き楽観できない状況である。

<米麦事業>

米穀の販売単価は昨年より上がり、売上高は増えた。

小 売 業

<共同店舗>

(Oショッピングセンター)

売上高・来店客ともに、前月比・前年比で上昇。前月比は、全体的に伸びたが、前年比においては飲食店の上昇率が大きく、物販店は、前年比割れであった。次月は、遠足・運動会関連・ゴールデンウィークに向けた商品提案を充実させていきたい。

<石油>

3月上旬、元売仕入価格が上昇。これにより、小売価格も上昇している。しかしながら、県南地方での価格競争の激化は続いており、厳しい経営環境となっている。

<青果>

前月から引き続き、野菜単価が高騰となり前半こそ横ばいで推移したが、春彼岸の取扱が伸び悩み量販店におされ、売上高、取扱高の減少となった。流通の変化や消費者の嗜好の変化の影響があらわれている。来月は、各地で桜まつりも開催されることから少しでも取引が増加することに期待したい。

<家電>

全体的に売上が落ちている。

商 店 街

<福島市>

駅前通りリニューアル工事による歩行者の減少が不安ではあったが、現時点においては杞憂であったと感じる。却って、以前のアーケードと比較すると、かなり広く・明るくなり開放感を感じる程。今後、残りの部分も工事が始まり、歩行者がどのように行動するか、如何にして他の通りへ逃がさないかの努力が必要になると思われる。

<郡山市>

うすい百貨店の春の北海道物産展が好評で多くの来街者があった。商店街の共同駐車場も前年比増で、3月の年度末で1年間トータルの前年比がほぼ同数になった。来月から商店街のイベントも始まるため、このまま、良い傾向で続いてくれればと願いたい。

<南相馬市>

商店街はこれといったイベントもなく、閑静な商店

街となっている。4月には春の歩行者天国を予定しており、多くの来街者で賑わうことを期待したい。

<会津若松市>

以前は年度末に合わせたオケージョンタイプ商品の動きがあったが、時代の流れとともに簡素化しているようではなかなか売り上げにつながらない。時代に合わせた提案を考えなければならない。

<いわき市>

天候の不順を理由にしたくはないが、前半の寒さで春物商品の動きが悪く、月末まで足を引っ張った様子。特に、平日の昼間の来街者数が大幅に減少しているように思われる。「何か仕掛けないと来店されない」という声が商店街の数店舗で聞かれた。飲食は送別会、卒業等の需要で賑わい、物販と対照的であった。

サービス業

<旅館業>

(土湯温泉)

3月に降った雪が、3月いっぱい残り続けるといった天候となったため、客足にその影響が出た。旅館等に滞在していた除染作業員も完全に退去しており、また空き屋状態に戻ってしまった。そのため、温泉の供給もなくなりその影響が出始めている。

<美容業>

季節とともに暮らしと各種の催し物(卒業式、新生活、行楽等)に左右されるサロンと、利用者個人の来店サイクルに変動があまりない施設とでの売上に差が出た感じであった。今後、経営基盤を築く上で、サロンに対する評判「世間の空気」を感じてサロンから発信することがこれからの売上に影響しそうだ。

<理容業>

毎年3月は、少し忙しい時期であるが今年も例年通りの状況であった。後半は、卒業や就職等で若い人たちの集まる店は高料金のメニューも売れたようだ。毎年1、2月は寒いせいもあり今ひとつ活気がでないが、これからは花見や行楽シーズンにも入るため、元気がでるようなおしゃれメニューを提案していきたい。

<一般廃棄物収集運搬>

通常業務については前月実績でほぼ同額の売り上げで推移している。産業廃棄物に関しては依然として排出量は震災前の水準には届かず、しばらくは増加することはないと思われる。しかしながら、相馬港において、水産業が本格操業へ向けて動き出しており、新しく契約が出来てきている。また、雇用については、組合員各社で人材の確保に苦慮している。対策として、ネット媒体の活用をしたところ、多くの応募があった。宮城県の仙南地域からの応募も多くみられたこともあり、今後、様々な工夫をしながら、雇用の問題に対応していきたい。

建 設 業

<建設業>

(県北地区)

地元企業が受注している住宅除染業務は28年度末でほぼ完了。今後は道路・森林・溜め池除染のほか、中間貯蔵施設への運搬に係わる搬出作業が見込まれる。

(県南地区)

土木・建築工事共に受注が減少したままで、工事規模も大きなものが少なく、今後の見通しも良くない。除染はほぼ完了し、若干の繰り越しが残っている。

<管工事>

前月比で給水・排水設備申請ともに増加。前年同月累計対比では、給水設備申請が増加し、排水設備申請

は減少している。

<専門工事>

専門工事業界における若年層の就職活動は、例年にも増して悪化していると感じる。一方で、売り手市場とはいえ学生の就労に対する意識の低さについても考えさせられる部分がある。果たして、彼らが10年後、20年後の自分たちの生活を想定して人生設計を行っているのかと悩まされる場面に何度となく直面した。実際の仕事面においては、仕事量の減少と利益率の低下、地域の建設業における社会保障に対する意識の低さが相まって、全体的に収益環境が急激に悪化している気配を感じる。実際にその影響が顕在化するの

う少し先だとしても、気配であるうちに対策を講じないとならないと感じている。

運 輸 業

<トラック団地>

(県北地区)

平成28年度の当組合員の業況は、受注面が安定していたことに加え燃料費の削減等もプラス要因となり、比較的安定した経営を維持することができた。

<ハイヤータクシー>

動きが少なく、低調である。4月は福島競馬の開催があり、少しでも動きが良くなることを期待している。